

# 瀬戸内海の小さな島での挑戦

あわしま  
粟島

# ECO と音楽と若者と

## 海賊の島 “ 粟島（あわしま） ”

3 度目の四国視察旅行、香川県三豊市の備後灘に浮かぶ粟島。グリーンコンシューマー大阪ネットワーク設立当初のメンバー宮本洋子さんが、移り住んで約 10 年の彼女を訪ねて、夜の海に漂う体長 3 ミリ程度の甲殻類、米粒位の海ポタルの幻想的な世界や 3 年に 1 度開かれ来場者が 3 万人規模の瀬戸内国際芸術祭の島として外に開かれたこころの島という案内でした。

縄文・弥生の時代から海上の要所、行き交う舟に近づいては、通行料としての何がしかを得てタグボートよろしく舟を誘導してみたり、金品や物資の提供がなければ、海賊へと変身したりと、時の用兵の島だったと教えてくださったのは宮本さんご主人。

彼は香川大学の学生達と共同でゾロアスター教の石窟への道を開拓中とのこと。城ノ山山頂は標高 222 ㍎ 360 瀬戸内を眺められ、大正 9 年には木造 2 階建ての海員学校が建てられ、おおくの外国航路の船員を育ててきたといひます。

最盛時には約 3000 人いた島民も今は、約 300 人。建屋の 7 割は空き家で多くは竹やぶに床を抜かれたり屋根まで突き抜れたり竹の被害にあっています。外国航路の元船員たちには、京阪神に別の住いを持ち、島に関心は薄いようですが・・・。



自前の可愛いイラストのカフェ



漂流郵便と元局長



ナビゲーター洋子さんが抱くチャポ。民宿経営の若者が飼い主。



若者が慕う音楽プロデューサー宮本さん。ネット時代、創作活動は、自然に近いところがいい。



廃棄する漁具のブイでつくったアート 自然に笑みが・・・

在来島民との貧富の格差や、好景気に沸いた高度成長期に島を離れた人々とのネットワークや、芸術祭に刺激を受けて近年、都会から移り住む若者たちと、公平なチャンスや支援に恵まれない人々の要になろうと、「ようこそ粟島へ」というホームページを運営しています。穏やかな瀬戸内の平穏な波打ち際には、カキの養殖いかだ、スナメリの姿も見られカヌーやヨット・釣り人にとってもよい港です。対岸には樹齢約 1200 年の大楠・香川県の保存木を有する志々島。過疎の進むこの島、でも歴史や瀬戸内の穏やかな環境、人々に惹かれます。一度粟島へ。そして移り住んでもといかがですか？（守）



島唯一のコンビニです！やっぱりアートでお出迎え！廃棄ブイでフグ提灯 海辺には、アートな亀も。フェリーや港は、巨大かつ笑える海ポタルがお出迎え！